

平成 26 年 5 月 8 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 26 年 3 月期 通期業績について
 ~不良債権を大きく削減、資産の良質化が更に進展~

当行の、第二次中期経営計画(平成 26 年 3 月期から平成 28 年 3 月期)の初年度である平成 26 年 3 月期通期(12ヶ月)の連結当期純利益は 413 億円、同キャッシュベース¹ 当期純利益 498 億円となり、前期比減益となりました。一方、単体当期純利益は、364 億円となり、前期比増益となりました。配当は 1 円の期末配当を予定通り実施いたします。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

| | 平成26年3月期 通期(12か月) | 平成25年3月期 通期(12か月) | 増減率 |
|-----------------------------|----------------------|----------------------|--------|
| 業務粗利益 | 2,030 | 1,990 | 2.0% |
| 経費 | △1,328 | △1,286 | 3.3% |
| 実質業務純益 | 701 | 703 | △0.3% |
| 与信関連費用 | △2 | △55 | △94.9% |
| その他利益(△損益) | △142 | △1 | n.m. |
| うち、利息返還損失引当金繰入額 | △156 | - | |
| 当期純利益 | 413 | 510 | △19.0% |
| キャッシュベース ¹ 当期純利益 | 498 | 604 | △17.5% |

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

- **業務粗利益**は、前期の 1,990 億円から 2,030 億円に増加。このうち、資金利益は、資金利鞘は改善したものの、調達が増加する一方で、運用資産残高が伸び悩み、前期比減少。非資金利益は法人部門でのプリンシパルトランザクションズ業務における堅調な収益の積み上げ、個人部門での投資商品販売が堅調に推移したことや、ショッピングクレジットの取扱高増加などにより、前期比増加。
- **経費**は、注力分野に経営資源の投入を図り、前期の 1,286 億円から 1,328 億円へと増加。
- **与信関連費用**は、不良債権処理に伴う貸倒引当金取崩益の計上や、資産の質の良化により、前期の 55 億円から 2 億円へ更に改善。
- **その他損失**は、消費者金融ファイナンス子会社において、利息返還損失引当金を 156 億円追加繰入したことから、前期の 1 億円の損失から大幅に増加し、142 億円の損失。
- **連結当期純利益**は、業務粗利益が増加し、与信関連費用が引き続き改善する一方、利息返還損失引当金の追加繰入を実施したことから、前期の 510 億円から当期は 413 億円へ減益。
- **単体当期純利益**は、与信関連費用が前期比大きく改善したことなどから、前期の 246 億円から 364 億円に増益。
- **総資産**は、平成 25 年 3 月末の 9 兆 293 億円から平成 26 年 3 月末の 9 兆 3,211 億円へ 2,917 億円増加。貸出金は平成 25 年 3 月末比で 273 億円増加し、平成 26 年 3 月末は 4 兆 3,198 億円。

資本および資産の質

- 内部留保の着実な積み上げと不良債権の削減により、平成 26 年 3 月末の連結コア自己資本比率(バーゼル 3、国内基準)は、13.58%。
- 不良債権残高は引き続き減少し、不良債権比率は平成 25 年 3 月末の 5.32%から 1.51 ポイント低下し 3.81%へと大きく改善。また、保全率も 95.3%と引き続き高い水準を維持。

平成 27 年 3 月期通期業績予想

- ◇ 平成 27 年 3 月期連結当期純利益予想は 550 億円、同キャッシュベース¹ 純利益予想は 620 億円。
- ◇ 単体当期純利益予想については、340 億円。
- ◇ 配当は経営健全化計画どおり、期末 1 円配当を予想。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html

以上